

会議録

会 議 名	第 6 回公共施設マネジメント推進計画検討会
日 時	平成 28 年 2 月 19 日（金） 午前 10 時～正午
場 所	八王子駅南口総合事務所 会議室
出 席 者	木村 俊介、倉斗 綾子、増尾 喜久、渡辺 悠子
事 務 局	行財政改革部長 吉徳 光男 行政管理課長 田倉 洋一 建築課長 小林 俊雄 清掃施設整備課長 青木 一浩 戸吹クリーンセンター所長 岡田 栄一 北野清掃工場長 前田 武敏 下水道課長 浅野 博秀 水再生施設課長 石井 正光 路政課長 村野 弘幸 管理課長 細井 東 路政課課長補佐兼主査 水上 太一 路政課主査 金子 紀行 行政管理課課長補佐兼主査 高嶋 秀樹 行政管理課主任 櫛島 孝志
欠 席 者 氏 名	なし
議 題	(1) 道路・橋りょう・トンネルについて (2) 下水道・下水処理場について (3) 清掃工場について (4) 公園について (5) その他
公開・非公開の別	公開
非 公 開 理 由	
傍 聴 人 の 数	なし
配 布 資 料 名	資料 1：道路・橋りょう・トンネルについて 資料 1－別紙 1「道路アドプト制度 概要」※ 資料 1－別紙 2「八王子市 橋守計画」※ 資料 2：下水道・下水処理場について 資料 2－別紙「下水道維持管理費 長期イメージ図」※ 資料 3：清掃工場について 資料 4：公園について 資料 5：第 5 回公共施設マネジメント推進計画検討会会議録 ※ ※当日机上配布

会議の内容

(1) 道路・橋りょう・トンネルについて

【事務局】（資料1）について説明）

【座長】資料1の1ページにあるように、道路延長は平成3年度から比べると、約1.5倍まで増えている。道路整備が進んだ結果、維持補修のコストが増加し、維持補修の方へ予算を回していくと、新規の整備ができなくなるというのが全国的な課題になっているが、八王子市の場合は、これまで整備してきた市道の維持補修の方でかなり予算を費やさなければいけなくなって、なかなか新規投資の方に回らないとか、維持補修の予算自体が厳しい状態になっているとか、八王子市としての特徴とか課題というものがあるか。

【事務局】未だに都市計画道路や生活道路について整備をしなければならない箇所があり、現状は維持補修と新設を並行してやっている。その比率としては、等分位と考えている。今後は維持補修の比重が高まっていくと思うが、これだけのインフラを維持するためにはかなりのコストを必要とするため、投資する重要な路線を決め、集中的に点検を行い予防保全等の補修を行っている。生活道路については、例えば道路に穴が開いているというような場合には直ちに補修センターという所管が、直営ですぐ対応し、多少道路が悪くなくても維持していくような形で考えている。維持補修の費用が新規投資より大きくなるのは、まだ少し先の話かと思っている。現在は、市民の生活向上、上げる部分と安全に暮らせる部分の両立を考えている。

【委員】資料1の文中に「開発道路の引き継ぎも少なくなり」とあるが、新しく整備したものに關しては、引き継がれてないのか。

【事務局】八王子ニュータウンや多摩ニュータウン等の新たな区画整理で新設した道路を引き継いでいたのが一段落したため、引き継ぎが少なくなっているという意味。

【事務局】資料1の認定道延長の図表は市が整備したのも、ニュータウンのような区画整理等で市以外が施工して引き継いだものも含めて、現在、道路という財産がこれだけあるということを示している。今後は引き継いだものも含めて、どう維持管理するかということについての計画を立てている。

【委員】まだ道路として整備が必要なのはどういう所か。

【事務局】市内の幹線道路が渋滞するというイメージがあるかと思うが、その解消のためにも都市計画道路はまだ必要と思っている。本市は都市計画道路の整備率がよく、東京都や国が整備したもの、市で整備したものの合わせ、70数%の実施率だが、まだ必要だと思う。これだけ市域が広いと、道路のネットワークというのが必ず必要。その他に市の北西部に關しては、救急車・消防車が入れない農道のような道路がかなりある。こういう所にも住宅があるので、そういう所の解消をしていかなければならないということで、道路改良というのがまだまだ必要だと思っている。ただ、取捨選択というのが必要だと思うので、よく現場を確認し、どこが必要でどこが必要ないかという判断をして、効果的に投資していくことが重要だと思っている。

【委員】要らなくなった道路を廃止するような考えはあるか。

【事務局】道路については、住んでいる方がいる限り廃止することはないが、今後アセットマネジメントで、橋りょうを長寿命化し、長くもたせようと考えた時に、これから人口が減っていく、住宅が少なくなっていくことを考えると、橋りょう等の廃止を、今後50年位の単位で考えていかなければならないかなというのも課題のひとつとあげられる。

【委員】現在重要路線以外は対症療法型の維持管理になっているということだが、年度末に道路工事が多いというイメージをもっている。完全に業者委託にしてしまっ、1年間で予算の範囲内で市内の道路の点検、必要な部分の補修をしてもらうようなことも可能性としてあるのか。

【事務局】一般的な包括委託ではないが、多摩ニュータウン地域については一部の業務を委託している。まだ道路の新設が必要な部分もあり、全市的に委託するには予算などを含めた課題が多いため、部分補修を直営で対応する部分と、多摩ニュータウンのように委託で直す部分と分けてやっている。年度末に道路工事が多いというご意見だが、国も規制をかけるようになり、本市も2月末までの委託契約としているため、3月は工事が少なくなっている。単年度の委託契約でやるために、前半で設計等調査して、後半に工事となることが多いためどうしても後半に工事が集中する部分もある。

【座長】道路面の修繕や植栽等を一括して委託することで、個別に入札で工事するよりも、かなりコストは下がるか。

【事務局】特にニュータウン地域については、景観に配慮した街づくりの整備を行っていて維持管理費がかなりかかるため、費用の面積単価からすると、包括的な委託がコスト面から考えて必ずしも良いかというのは一概にいけない。

【座長】コストが下がらないと、包括委託のメリットが出せないのでは。

【事務局】そこをうまく作っていくのが課題。うまく加減を取りながら、全て注ぎ込むだけではなくて、細く長くやっていければいいのかと考えながらやっている。

【委員】生活道路を対症療法で維持管理する場合に、予算にも限りがあるわけで、早く悪くなったもの勝ち、先に言い出した方が勝ちとならないよう、何を優先するのかを、基準として市民に示すのが良いのでは。多少悪くなっても他の道路を優先させることが客観的にわかるような基準があれば、納得してもらえるのでは。

【事務局】現地に職員が行き、地元の方に納得していただくよう、全部を補修、部分的な補修あるいは穴だけを埋めるといった対応方法について、逐一説明しながらやっている。基準を示すことについては確かに必要だと思う。

【委員】こういうメリットがあるから包括契約するということは、説明された方がいいし、包括委託した結果をデータとして蓄積していったほうが良いのでは。第3者が聞いた時に、場当たりの対応しているような受け止められ方をされないよう。包括委託に対するメリットの追求が薄いかと感じた。

【座長】いかに維持管理コストを抑えて、新設道路のほうに回していくのが課題になると思うが、沿道周辺の住民に、植栽の管理、小規模修繕とか直接メンテナンスを協力してもらうという取組を進めている自治体があるが、八王子市ではどうか。

【事務局】アドプト制度、里親制度というものをやっていて、車道については危険を伴うので、歩道とか遊歩道の清掃・草刈り・除雪をやってもらっている。現在、58団体、道路延長45kmを活動してもらっている。草刈りの用具等を支給し、保険等をかけて支援している。

【座長】実際に活動している市民からは、どのような反応・感想があるか。

【事務局】もう一つの効果として、市民が地域に対しての助成を望んでいるということは声として聞いている。その他の本市の助成としては、制度の効果上げるために活動5年を経過した団体については、市で表彰している。その団体の中から選び、翌年に東京都の道路功労者表彰にも推薦して、東京都から表彰してもらっている。課題としては、個々の

団体の高齢化により、活動団体が増える一方で辞めていく団体も出てくる。年齢が高くなり、会員が集まらなくなったので終わりにしたいという申し出がいくつかある。

【委員】修繕というとマイナスになったものを元に戻すというイメージだが、道路の付加価値を高めているような事例はあるか。例えば、2年前位に大雪が降った時に、高尾駅行の路線バスが坂道が上がれなくなって、徒歩で駅に向かうという状況があった。修繕の時にゼロに戻すのではなく、そういう所を改善する対策はとられているか。

【事務局】本市も雪がよく降るが、雪国のように水をまくような設備を作るには、あまりにもコストがかかり、費用対効果を考えたら、除雪をきちんとするような形でやった方が良いと思っている。毎年、バス会社・タクシー会社・国道・都道の管理者を集め、会議を行い、常に協力体制はとれるような形でやっている。今年も雪が降ったが、補修センターの職員は、その都度待機をしており、すぐに作業にあたるような体制を築いている。ハード面より、ソフト面を重視する。

【座長】次に橋りょう・トンネルについて。橋りょう・トンネルは点検をするのが最優先で、既に実施されていることと思うが、点検を行ってみて、課題が分かったこと、至急手をいなければならないことがあるとか、予防保全が意外とコストがかかるとよく聞か、橋りょう・トンネル等その後の対応について、課題・話題になっていることがあれば。

【事務局】点検自体も全国で一遍に行われ、これからも継続して行われるので、技術者が不足しているというのが課題。点検する技術者も、診断する技術者も足りていない。本市については、橋りょうだけでいうと750橋が対象になる。全部委託するには予算が足りない。職員が資格をとり、脚立で点検できる様な所は直営で対応し、その分委託に出さないでコストを抑えたい。現在、点検士も3名が資格をとっており、今後も増やしていく予定。平成20年から点検をやっているが、平成25年に点検を全てしなさいという国からの通達が出て、平成26年の7月頃、要領が決まったが、以前は遠方から目視で技術者が行っていたものが、直接触って確認、直にハンマー等で叩いて実施しなければならなくなり、時間がかかるようになった。本市では、塩害というものが無いので劣化の度合は少ないが、部分ごとに腐食等があるので、そういう所の対処をきちんとやろうとすると、それだけの予算は必ず確保しなければならない。

【委員】職員の資格取得を提案しようと思ったら、職員の方が資格をとられてることなので、感心した。トンネル・橋りょうは、各メーカーに発注されていると思うが、点検・診断・補修に関しては、建設したメーカーが優先的に実施しているのか、入札されているのか。

【事務局】点検は、専門業者、補修についても入札。

【委員】コストを抑えるという観点から、建設業者にその後の点検・補修も発注するとうのかなかと思ひ質問した。

【事務局】その会社で独自の技法でやっているようなものの中にはあるかもしれないが、工事契約の手法は本市では確立されている。

【座長】分野ごとに感想を言うと、通常の標準的な都市以上に、これからの新設需要が多いという印象があり、できる限り維持補修の予算節減を図るという必要があるということは所管としても痛感していると思うが、包括委託や、市民の方の協力の形等、できる限り効率的な手法の模索というか、今以上に工夫が進められると良いのではと思う。

(2) 下水道・下水処理場について

【事務局】(資料2)について説明)

【座 長】下水道については、配管の問題と処理場の問題、中水道事業の3つの内容があるかと思うが、下水道の配管の問題として、現在、ほぼ100%でかなり高い普及率となっている。全国平均が77%位で、東京都の平均が99.5%。東京都の中でも普及については進んでいるが、今後は配管の更新をいかに効率的にやるか、処理場の経営をいかに効率的にやるかが大きな課題かと思う。イメージ図で、ストックマネジメント手法を使って長寿命化を図り、コストを平準化できるとあるが、実際に数字で見てもそうなのか。どれくらい下げられるのか。

【事務局】下水道の管の法定耐用年数が50年。順に壊れたものを同じように作りかえた場合と、予防保全型で長寿命化、更新を先行して行った場合とを比較したのが、別紙のイメージ図。本市の場合、平成19年に下水道がほぼ完成し、現在、一番古い北野処理区の点検・長寿命化の工事に着手している段階だが、市域全体となると、2,100kmほどの膨大な数の下水道があり、まずきちんとした点検をして、その状況を把握し計画をたてていくとなると、具体的な数字については、現状としてまだ示せる段階ではない。そもそもの耐用年数が、50年ではあるが、実際には80年まで伸ばせるのではないか等、点検の状況でかなり変動する可能性がある。50年かけて整備してきたが、今でもインフラ資産としては、約2,400億円残っている。整備費用としてはその倍位かかっていると思うので、それを割り返すと、非常に膨大な金額、これについては計算によって誤差も大きくなるということで、慎重にこれから計画を立案していく。まずは、点検結果を出していくという段階。

【座 長】いずれかの時期には、公表されることは考えているか。公表したほうが良いと思う。

【委 員】イメージ図なので、よりこれに近づけることを期待している。

【座 長】下水処理場については、編入することによって、どれくらい維持管理費を下げるができるのか。

【事務局】ホームページ上で公開しているが、維持管理費に関して年間1億円程度の削減が図れると試算している。

【委 員】編入された後、資料2の3ページ「施設一覧」の①～⑤の施設だけ残って他は不要になるということだったが、東京都の水再生センターは施設の上部を利用して公園にしたり、定期借地権を設定して民間に貸して建物を建てたり、色々やっていると思うが、跡地利用については何か考えはあるか。

【事務局】処理場の敷地面積としては約8haある。今後残る雨天時ポンプ場が、まだ検討中なので明確な面積は分からないが約1haくらい。残った面積に関しては、駅にも近く、16号バイパスへのアクセスも良い。さらに川沿いに立地しているため、環境にも寄与できる良い場所。所管としては、将来どの部分が必要な施設になっていくのかを検討している最中。今後は跡地について、市の中で横断的な検討会が立ち上げれば、その中で利活用の検討を進めたいと思っている。

【委 員】土地を貸して、会計上どうか分からないが、賃料を維持管理費に充当したりできるのでは。

【座 長】全国的には、フットサル場に使用したり、色々な使い方があるようだが何か有力なアイデアは持っているか。

【事務局】スポーツ施設の設置等含め、どういう使い方ができるかという問い合わせは多数の所管

からもらっている。今後庁内の検討会で決めていく話だが、それぞれに期待は抱いていると感じる。

【委員】維持管理コストが1億円削減できるとのことだが、全体の何%位か。

【事務局】編入の話は平成10年度位からあり、供用開始から約50年でようやくこぎつけた。その間、将来使わなくなる施設に予算をかけるわけにいかず、細かい修繕だけに止めてきた経緯がある。現在年間約7億円で維持管理・修繕をやっているが、本来ならもっと予算をかけるべきであった。その中で将来1億円の削減というのが試算として出した数字。

【委員】編入するエリアは今後増えていくのか。

【事務局】北野処理区が全体で969ha。そのうちのJR中央線の北側354haが雨と汚水を同じ管で流す合流地区となっているが、受け入れ先である東京都の八王子水再生センターは、分流式の下水処理場で雨には対応していないため、雨水対応する施設としては残りの敷地を使って存続していかなければならない。編入に関しては、他の3処理区は流域関連公共下水道ということで、既に東京都の処理場で処理しているので、そこに北野処理区の編入が終わればそれで終わり。

【座長】将来的に、合流式をすべて分流式に切り替えていくような構想はあるか。

【事務局】編入の時に分流化も検討したが、354ha、100km近く延長があるため、それを敷設替えしていくのも、お金と時間がかかる。今回編入をやっていく上で、1番目の目標は、水質改善という問題。昭和40年代にできた処理場は、当時の基準では良かったが窒素・リンの対応ができてない。東京都の処理場は窒素・リンの対応もしているので、まずは河川の水質向上。

【委員】南大沢の水リサイクルセンターは外見も綺麗で、水処理は臭いもないし感心する設備と思っている。ここで運転されているのは委託なのか市の職員がやっているのか。

【事務局】一般的なメンテナンス会社に委託している。

【委員】処理した水は全部使い切っているのか。使い道がなくて困っているという状況はあるか。

【事務局】リサイクルの流れとしては、厨房で使った水が当施設に入り、それをイトーヨーカドー・パオレ・フレスコ南大沢のトイレ用に使う中で、需要量と供給量が均衡ではあるが、使われなかった汚水に関しては、下水に流している。

【座長】水を大切に使うというシンボリックな意味と、採算性を上げて安定して事業を継続していくという両方を考えなければいけない話だと思うが、これ以上に需要量を増やしていくのが難しい中で、八王子市としては今後の方針はどのように考えているか。

【事務局】施設は平成4年から稼働しており、すでに耐用年数を迎えているが、水リサイクルセンターを活用する他のビルはその後にできている。利用者の持っている建物が今後老朽化した時に、考え方の整理が必要になってくる。今使っている方達は、市の姿勢に協力的で、今後も使いたいという意見があるので、まずは、長寿命化・耐震化を完了させて施設の安定化をはかりたい。今後、長寿命化の際に、ろ過膜を変えようと思う。それによって、維持管理費が低減できるので、効率的な運転をしつつ、利用者の期待にも応えていきたい。

【委員】いい取組だと思うし、水資源を大切にすることにも寄与すると思うが、10年位この周辺を利用して、こういう施設だということは、今日初めて知った。せっかく立体エリアの中水を再生利用をしているということであれば、もっとアピールできると良い。

【事務局】橋の方から見ると、南大沢水リサイクルセンターと表示してあるが、わかりにくいかもしれない。

【座 長】どうしても、行政的な目的と収益性との両方を考えなければならないと思うが、水の再生ということについては、行政的な面が強いところだと思うので、市がこういうことをやっているというような PR をより行っていただくのが有効かと思う。

(3) 清掃工場について

【事務局】(資料 3)について説明)

【委 員】北野清掃工場は、平成 34 年から稼働停止するということだが、廃止するのか。

【事務局】平成 33 年度まで稼働して、平成 34 年から新館清掃工場が稼働すると同時に休炉になる予定。

【委 員】維持はするのか。

【事務局】お金はそこにかけないつもり。

【委 員】跡地利用はするのか。

【事務局】先ほど下水処理場の話があったが、北野地区全体の土地活用ということで、「北野地区土地活用準備会」というものを立ち上げている。その中で色々な施設について検討している段階。すぐ側に余熱施設・あったかホールがあるが、平成 34 年以降にどうするかも検討しなければならない。

【委 員】戸吹や新館清掃工場には余熱施設はないのか。

【事務局】戸吹清掃工場については、この間の視察で見ていただいたように入浴施設がある。

【委 員】清掃工場と余熱施設はセットで考えたほうが良いのでは。他市でも、余熱利用施設を造ったものの、清掃工場が稼働しなくなった際に、温水プールの維持管理コストが急激に上がってしまったという事例をよく聞く。アンバランスが起こりがちなので、一緒に考えた方が良くないと印象を受けた。

【委 員】新館清掃工場の時は余熱利用をどうするかというのは、検討されているか。絶対抜きでは語れない。赤字になる施設を作るかどうかは、市の運営次第。

【事務局】余熱の熱量は施設規模によって違うが、新館清掃工場の余熱利用の基本的な方針としては、余熱についてはまず発電をして余剰の電力については売電をするということを最優先に考えている。その上で、熱エネルギーの余った分について、何かしらの用途にということで、地元の方と議論させていただきながら、今後決定をしていく。今のところ施設規模から考えて、北野のあったかホールや戸吹の入浴施設のようなイメージは、熱量の関係から難しいかと考えている。

【委 員】2 ページに、戸吹清掃工場のごみ処理量 1 トン当たり 17,000 円となっているが北野清掃工場の 19,000 円と比較して安くなっているのは売電した分安くなっているという考えで良いか。

【事務局】このコストの算出には収入分は考慮に入れていない。

【事務局】戸吹でいうと、月に 2,300 万円位の歳入がある。

【委 員】1 ページのごみ焼却量の予測と現状で、平成 26 年に予測は減っているのに、現状では焼却量は増えている。これは理由があるのか。

【事務局】平成 22 年にプラスチックの資源化の拡大をはかり、それまで不燃物として扱っていたものを資源に回すことで、資源化を高めた。それに伴ってプラスチックを可燃に回すというような方法を導入した過渡期といえる。

【委員】一般の化学プラントの観点だが、長寿命化で一番抜けていると思うのは、運転操作やオペレーターの教育。自動運転化はされていると思うが、設定や緊急の対応などは、運転員に頼らざるをえないので、人材を育成し、資格を取得させるようなことができれば、職員のやる気にもなるし、目に見えて励みになる効果かと思う。運転操作による長寿命化や、コスト低減が議論から置き去りになりがちになる。自動運転していても、オペレーターが常にモニタリングしながら設定を変えないと難しい。

【委員】焼却灰の処理はどうされているか。

【事務局】焼却灰は、日の出町にある処分場の中にあるエコセメント化施設を利用し、灰を原料にしたセメントを作っている。環境的には、今のところ調査をして問題ないと伺っている。

【委員】マネジメントということで考えると、跡施設になったものを手放すことができない中で、炉を停止していればコストはゼロ円かということでもないで、そこをどう市民に理解してもらうかということを経今後丁寧にやっていき、他自治体の参考にしてもらえるようなケースができれば良いなと思った。

【座長】余熱施設を存続するか止めるかという視点だけでなく、市全体の取り組みを理解してもらえるような進め方をしてもらいたい。

(4) 公園について

【事務局】(資料4)について説明

【座長】資料4の1にあるように、平成元年から比べると、急激に整備する公園数が増えている。224から781。他の自治体と比べて、八王子が都市公園が多いわけではないのか。

【事務局】小規模な団地の造成の時等に関係指導の関係で緑地を一定程度残したり、新たに公園を整備することになっているので、そういったことで市に移管された公園が多い。したがって大規模な緑地を除いて、街にある都市公園は、数は多いが、都市公園に限っては1人当たり面積というのは決して多い方ではない。

【委員】1ページ一番下の行のニュータウン地区の材質コストが高いというのは例えばどんなことか。

【事務局】遊具にしても、一般的なジャングルジムや滑り台ではなくて、少し高価な遊具がついていたりする。南大沢地区やニュータウン地区に行っていただくと殆ど、いわゆる公園にある砂場・ジャングルジム・滑り台の他に、あるいは滑り台の代わりにそういうようなものがある。大型アスレチックというほどではないがアスレチック。ちょっと贅沢なもの。

【委員】維持管理に関して、資料の中に「管理者が常駐していないため」とあるが、今は、公園で怪我をした際も、役所のせいにしてあげばいいという感じの風潮が結構あって、あまり公園と市民がいい関係ではないことが多いなと感じる。公園がクレームの対象になっていたりすると思うが、道守とか、橋守のように、地域で維持管理してもらって、自分達で「ここが危ない」とか「ペンキがはげている」と注意して見てもらってれば、愛着も沸いてきて、そこで怪我することを行政のせいにするという考え方みたいなものも少し変わるのではないかと思う。ささくれ一つで苦情の電話がくるような、そういったものに全て対応していると埒が明かないなと思っているので、市民を巻き込むような新しいメンテナンスの仕方を、公園はできるんじゃないかを感じる。

【事務局】公園についても先ほどの道路アドプトと同様に、公園アドプト制度というのを導入している。実は公園アドプトの方が道路アドプトより歴史が長い。町会の方達に草刈をして

もらったり、公園の一部を花壇にして地域の方に花を植えてもらったり、きれいな公園にさせていただくことでごみも減る。本市の公園には、現在ごみ箱を設置していない。かつて、公園のごみ箱にごみを捨てられてしまい、ごみだらけになる状況があったので、逆の発想でごみ箱を撤去した経緯があり、殺風景なところに、地域の方達に花を植えていただいたり、樹木を育てていただいたりすることで、公園に愛着が湧くと思う。課題としては道路アドプトと一緒に、やっていただいている方の殆どが高齢の方。

【委員】子どもにもやってもらえば良い。

【事務局】子どもにも声はかけているが、町会の活動等に親が積極的に参加できてないエリアも多いので、そういう所はどうしても高齢者だけの活動になってしまっている。一方、遊具を使うのは子ども達なので、先ほどのような、苦情というか、遊具のネジが緩んでいる等の連絡も、ある意味点検にはなっていると思うが、たくさんいただいている。1ページの表にもあるとおり、現在本市の公園の維持管理は殆どが指定管理者が行っているので、公園の管理に長けた人間が、連絡が入ったら速やかに点検に行って、必要な処置をして、直せないということであれば、場合によっては撤去したり、大規模な補修により一時期利用できないということもあるのが現状。

【委員】犯罪など色々な面で、なかなか子どもだけで公園に行かせられないが、幼稚園の事例で、幼稚園の園庭の遊具を卒園する学年の園児の父親達に作らせるという園の話聞いた。手作りなので怪我しそうな遊具だが、怪我をしても、親達が作ったものだとクレームが出ないという話だった。何年かごとに卒園時の親達に来て、メンテナンスをする。そういうふうになると、卒園した子どもも普段は園に行けないのだけれども、その時に一緒に来て、昔遊んでいた園に来るみたいなことができるようになる。公園も同じような手法を使ったら、公園の環境自体もよくなるのかなと思う。メンテナンス、マネジメントという固い話もあるが、今は公園というものの存在価値が危うくなっているなど感じることもあるので、そういうことも含めて改善するといいなと思っている。

【委員】課題の所に書いてある「本来の利用方法以外の使い方を抑制できない場合が多い」とは、具体的にどういう使われ方があるのか。

【事務局】例えば、滑り台は基本的には、上から滑る。ジャングルジムは、基本的には上るのですけれど、一番上から飛び降りてしまうとか。

【委員】子どもの使い方を見ていると、滑り台を下から上ったりとか、体を動かしたいエネルギーに満ち溢れている。管理する側としては事故がないようにという考えがあるのは当然だと思うが、もうちょっと自由な使い方ができる遊具があるといいなと感じる。管理する側は、作ったり大変だとは思いますが、もうちょっと市民が管理するので、市民が欲しいものを作るとか、意見が集約された公園作りと運営ができていくと良い。

【事務局】昔の公園にあった遊具だけではなく、最近は健康遊具等、高齢者向けのものもあり、子どもだけのための公園ではない状況もある。平日の昼間、運動している高齢者もいて、公園で遊んでいる子ども達を散歩がてら見守っている高齢者の方達もいて、毎日来ていれば顔見知りになっていたりとということもあるかもしれない。遊具に関しては、安全でかつ遊びやすい遊具というのはコストもかかってくるものでもあり、全ての公園を同じように整備するというのは難しいが、今後どのような遊具がいいのかというのは、全国的な課題でもあるので、安全性が高く、遊びの中で子どもの運動能力が鍛えられるような遊具を導入していければいいのかなと思う。

【委員】子どもは安全な遊具では遊ばない。つまらないものだ。

【委員】保育園を見ていると、単なる築山、木とか、そういう方が子どもの好奇心を掻き立てる。

【事務局】木登りとかジャングルジムも、登って怪我をした時に親御さんがどういう反応されるのかということによって、行政側としてもその遊具をどうするのかという対応に関わってしまう。本市の場合、点検もやっているの、通常の遊具の使い方をしていたのに大きな怪我をしてしまったという事例は過去においても無いということなので、公園で怪我をされ、市に電話があるというケースもあるようだが、ある程度は危険が伴う遊びをするのも子どもの常で、その中で怪我をされた部分ということで、最終的には納得してもらっているようだ。

【委員】アドプト制度を今まで知らなかったが、制度の活かし方がもったいないと感じる。課題として高齢化により辞めていく団体もあると先ほどあったが、世代の新陳代謝もあるはずで、持っていき方が下手なのではと感じた。高齢者の絶対数も今後増えるわけで、もっと公園の維持管理をやってもらうために、高齢者向けの遊具をもっと入れたり、地元市民にNPOを立ち上げてもらい、指定管理者になってもらうような体制を整える、それを市がお膳立てするとコストも下がっていくし、安全とか遊びという面でも、活性化できるのではということで、この制度はぴったりの制度だと思う。

【事務局】長池公園は、NPOが一生涯懸命活動していて、公園内の原生林や、野鳥の説明をしたり、環境、自然にかえった遊び方を教えていただいているので、貴重な公園だと思う。

【事務局】現在指定管理者が758箇所の公園を管理している。

【委員】指定管理者はどこかで経験を積めば、誰でもなれるのか。

【事務局】長池公園のような大規模な公園だと、その公園だけで管理を受託できるということはあるが、本市の場合小規模な公園が多いので、グループ化して指定管理者を募集している。エリアで指定管理をお願いするというような。そうすると、地域の方が全部の公園を管理するというのも難しいから、指定管理の募集方法とコスト面の両面を考えて、どういうバランスがいいのか検討していく余地がある。

【委員】積極的に子どもを外に出すために、1人、公園に「公園おばさん」のような方がいて、お弁当等も売ってくれたりするという、学童保育も兼ねているような事例がある。共働きの親は、付き添っていなくても子どもを公園に出せて、さらにその人が公園のメンテナンスもやっている。これからの人材活用の仕方を考えると、そういうことも含めてマネジメントを考えなければいけないかと思う。お昼ご飯も予約制なのかわからないが、サンドイッチみたいなものを持って来てくれて、一日中子どもが公園にいられる。それくらい子どもに外にいて欲しい含みがあるのだと思うが。

【委員】今も近くに保育ママさんがいるので、午前中は公園に行けば保育ママが子どもを連れて来ている。人がいる所にやはり人は集まってくるかなと思う。

(5) その他

【事務局】次回予定は、3月29日(火)10時から。最後の検討会として、これまでのまとめの資料をお配りして、新たなお意見等いただきたい。28年度については、今までいただいたご意見を参考に、公共施設マネジメント推進計画の案を作っていく。

【事務局】来年度は、今まで半年間ご議論いただいたものをまとめ、公共施設マネジメントの憲法とでもいうような、こういうふうに進めなければいけないというものを分野ごとに作り、公共施設マネジメント推進計画としていきたい。各他の団体等のアンケート等を見ても、施設マネジメント自体を知っているという方の市民の割合が低い割合になってい

るので、これからは計画の説明を含めて、地域の方向けにシンポジウム等を開催していきたいと思っている。その節には、委員の皆様にご参加いただき、シンポジウムの時にはゲストになっていただくこともあるでしょうし、説明会の時は、今までの過程でこのようなものができたのだということで、市の財政状況とか、今後の公共施設をどうすべきかということは、ここまでも詰めてきた内容ですので、その辺は行政の方から説明したいと思いますが、委員の方々からは、施設マネジメントについて率直な意見をいただきたいと思っている。是非来年度もご協力お願いしたい。

【座 長】次回の検討会で、新年度の予算で公共施設マネジメントに関連する内容のものがあれば概要を情報提供いただきたい。今日はこれで終了する。